生徒心得

豊かな高校生活を送るためには校則を守り、学業に専念するとともに、本校生徒としての誇りを維持し、集団社会の一員として互いに人格を尊重しあい、差別のない場をつくり、協調と礼儀を重んじ、若き日に自己の知性を磨き、人格を高め、心身を鍛え、学校行事に積極的に参加し、互いの理想を求めて努力すること。

(1) 学 習

1. 学習は学校生活の基本である。授業中には全精力を傾けて学習し、家庭では予習・復習を怠らないこと。
2. やむを得ない事情のない限り、欠席・欠課・遅刻・早退をしないこと。
3. 8時20分には登校し、8時25分には教室で待機していること。
4. 宿題、その他の作業、提出物、報告書などは期日までに必ず提出すること。

(2) 服 装

1. かわち野高校の制服を正しく着こなし、品位を失わないように心がけること。
2. 登下校の際は、平日・休日を問わず、学校指定の制服を着用すること。
3. 病気その他やむを得ない理由で、制服以外のものを着用する場合は、事前に学校の許可を得ること。

服装の規定

1. ◎ 冬服

所定の制服に所定のネクタイ・リボン（女子）を必ず着用すること。

◎ 夏服

所定のカットソーシャツを着用すること。（下着として着用するTシャツは白が望ましい。）長袖のカットソーシャツを着用することも認める。

※ 気候等に応じて中間服装を認める。

中間服装とは、冬服・夏服を着用したり、長袖カットソーシャツのみ、あるいはカットソーシャツの上に学校指定のセーター・カーディガン・ベストを着用したりすることをいう。

2. 防寒具は登下校時のみ着用は認める。着用する場合は華美にならず学生らしいものとする。

※ 防寒具の校舎内での着用は認めない。

3. 服装はすべて細工、変形を加えない。
4. アクセサリー類（イヤリング、ネックレス、ピアス、リング、つけ爪、カラーコンタクト）等は身につけないこと。身につけていた場合は預かり指導の対象となる。
5. 通学靴は運動靴又は革靴とし、ハイヒール、サンダル、クロックス等は認めない。
6. 上履きは本校指定のスリッパを使用すること。なお、前面、後面の両方に氏名記入のこと。
7. 髪は清潔な印象を与えること。パーマ、染色、脱色、エクステ等は禁止する。

(3) 通学及び登下校

1. 通学に際しては、時間的余裕を持って家を出、交通法規をよく守ること。
2. 自転車通学を希望する者は学校の許可を得ること。
また、自転車通学規定を順守すること。
3. 交通事故にあったときには、すぐに警察に連絡するとともに担任又は学校に届け出ること。
4. 平日の早朝登校時刻は午前7時30分以後とする。
5. 下校時刻は午後4時45分とする。
6. 部活動等で定められた下校時刻以後も在校する必要がある場合は、必ず部活動延長許可願を出し、関係先生の付き添いを必要とする。
7. 長期休暇中における部活動の登校については別に「部活動規定」を定める。

8. 災害時等、特別な事態では学校長の判断で生徒を校内にとどめる場合がある。

(4) 礼 儀

1. 礼儀作法は人格を現すものであり、新しい校風づくりの第一歩であるから、人に対しては常に尊敬・親愛の情をもって接すること。
2. 正しい言葉づかいをし、常に自分の言動には責任を持つこと。

(5) 美化, 整理, 整頓

1. 校舎, 校具を大切にし, 学校の美化, 整頓に努める。また清掃は毎日行い, 互いに汚損しないように心掛ける。
2. 校舎, 校具を誤って汚損した場合は, 速やかに担任又は関係顧問に届け出て, その指示に従う。正当な理由なく汚損した場合は当事者による弁償を原則とする。
3. 貴重品等自分のものは各自でしっかりと管理すること。

(6) 一 般

1. 飲酒・喫煙・暴力行為、窃盗等、法に触れる行為、また考査時における不正行為等は絶対にしないこと。違反した場合は学校長より指導を受ける。
2. アルバイトは原則禁止とする。保護者が学校生活に支障が出ず、必要やむを得ずと認めた場合は、保護者の許可を得てから行うこと。

※アルバイトが理由で、放課後の指導等に残ることが出来ないなどは認めない。

3. 許可なく外来者を校内に案内しない。
4. 校内において、部等団体結成・集会・冊子・新聞の発行・物品販売・募金掲示・宣伝等の表現行為をする場合は、必ず事前に生徒指導部に届け出て許可を受けること。
5. 無断で火気・電気器具等を使用することは認めない。また消火器等は必要時以外は触らないこと。
6. 学校に不必要な物（雑誌・遊戯道具等）は持って来ないこと。
7. 昼食を摂るため、校外への外出は認めない。

(7) 校外生活の心得

1. 本校生徒としての品位を保ち、自覚ある言動をするよう心掛けること。
2. 不健全な飲食店、遊技場、劇場等には立ち入らないこと。